

株式会社 ファミリーマート 御中

インドネシア共和国
北ジャカルタの学校における防災能力向上プログラム

完了報告書

(2014年5月1日～2015年4月30日)



2015年6月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



1. 事業概要

事業名	インドネシア共和国 北ジャカルタの学校における防災能力向上プログラム ¹
対象国・地域	インドネシア共和国 ジャカルタ首都特別州 北ジャカルタ
事業期間	2014年5月1日～2015年4月30日
予算	5,000,000円
受益者	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象の小学校20校の生徒4,003名 (男児2,097名、女児1,906名/心身に障がいのある男児23名および女児6名を含む) ● 対象の小学校20校の教師212名(男性102名、女性110名) ● 地域コミュニティの人々297名(男性149名、女性148名)
事業目的	北ジャカルタのスラム街がある貧困地域の小学校において、避難訓練の実施と避難キットの配布を通じて、子どもたちの防災能力向上をはかる。

2. 事業の成果

北ジャカルタのチリンチン地区の対象小学校20校すべてに対して避難標識、避難キットおよび防災教材が配布され、キットの使用法を含む防災研修が実施されました。また、学校のみでなく地域コミュニティ・地方政府・軍や警察を含む郡や州レベルの災害対応機関を巻き込んで避難訓練が行われました。その中で子どもたちは、避難におけるリーダーシップやけが人らへの簡単な手当の実施等を通じて防災活動に参加し貢献できることを示しました。さらに、この避難訓練は同地区当局がセーブ・ザ・チルドレンの協力を得て洪水対応計画の作成に取り組むきっかけとなりました。同地区の洪水対応計画は2015年6月17日の公聴会で州・市・地区レベルの関係当局や地域コミュニティの代表者合わせて60名の参加者からのコメントを受け、完成までの最終段階に入っています。

3. 活動内容と成果

3-1. 地元政府や関係諸機関と協力の下、小学校における避難訓練を実施

①避難訓練の実施

対象校20校にて緊急時対応計画を作成後、以下のように避難訓練が実施されました。

実施日	実施校	参加人数
2014年6月26日	Darut Tauhid 小学校	260名(地域コミュニティの代表、他校および警察・軍などからの見学者を含む)
2014年10月28日	Kasih Immanuel 小学校、Kampung Sawah 小学校、Al Rahmah 小学校(カンポン・サワ地域の3校合同)	986名 ² (11の町内会代表を含む)
2015年2月25日	Al Barkah 小学校、Baburidho 小学校、Pantai Indah 小学校、Ash-	1,159名(町内会等の住民組織代表および郡政府より参加)

¹ 本事業はオーストラリア政府の資金で実施している教育事業と連携する形で、学校の防災能力向上に向けた活動に取り組みました。

² 参加者リストに基づき、第2四半期報告書でご報告した「約800名」から数値を修正しました。

実施日	実施校	参加人数
	Shidiqin 小学校、AL Ikhwan 小学校、Tarbiyatul Islamiyah 小学校、Miftahul Jannah 小学校の 7 校各校にて	した職員を含む)
2015 年 3 月 5 日	Nurul Ikhlas 小学校、Al Maarif 小学校、Darussalam 小学校、Muhammadiyah 18 小学校、Miftahul Hikmah 小学校の 5 校各校にて	928 名(地域コミュニティ住民を含む)
2015 年 3 月 31 日	AL Mubasyirin 小学校	90 名
2015 年 4 月 8 日	Dewi Sartika 小学校、Yudha Patria 小学校、Marunda 02 小学校の 3 校各校にて	1,098 名。そのうち Marunda 02 小学校からは心身に障がいのある子どもたち 29 名が参加
	合計	4,521 名 ³

これらの避難訓練は地方政府当局や警察、消防、ジャカルタ特別州災害対策局 (BPBD) 等との連携の下行われました。またこの中でファミリーマート・インドネシア事務所より 6 名のスタッフの皆様にご参加いただく機会を持つこともできました。

2014 年 10 月に避難訓練が実施されたチリンチン地区カンポン・サワ地域では、翌年 1 月の洪水時に住民らが実際に洪水対応計画にそって避難し、本事業の成果を確認することができました。同様に対象校の Darut Tauhid 小学校周辺でも浸水が高さ 1.3 メートルに達する洪水が起こり、配布された手動式サイレンの早期警報に従って住民 300 名が避難しました。

②地域の組織・機関との連携の推進

避難訓練の実施は、上述のチリンチン地区における洪水対応計画作成に加え、州・市・地区レベルにおける政府の防災対応に各学校・町内会の災害対応計画・ニーズを反映させ、またそれを州や市レベルの災害対応計画とどのように連動させるかを各レベルの行政当局が見直すきっかけとなりました。

またセーブ・ザ・チルドレンは北ジャカルタ災害対応課から依頼を受け、同市内のすべての学校に配布するための防災教育ビデオの作成に取り組んでいます。このビデオは火災対応等を題材とするもので、本事業の避難訓練時にはその元となる動画の撮影が行われました。防災教育ビデオは現在最終編集の段階にあり、完成後には YouTube でも公開される予定です。

その他、対象小学校のうち火災のリスクが高い Al Maarif 小学校では港湾運営企業のペリンド社と合意を結び、同社敷地内の中庭を同校の緊急避難所とするよう取り決めました。

³ ファミリーマート・インドネシア事務所スタッフの皆様を含め、対象地域外からのオブザーバー 9 名が含まれています。

3-2. 避難キットおよび防災教材の配布

① 避難キットの配布

手動式サイレン(小型タイプ)、消火器、避難標識を含む避難キットを対象各校に配布しました。また避難訓練をきっかけに学校周辺の地域コミュニティにも防災への取り組みを呼びかけ、体制が整ったコミュニティに対しては手動式サイレン(大型タイプ)やトランシーバー(ハンディタイプ)を提供しました。これらの避難キットは、教師や生徒に使用法を指導の上、避難訓練で使用しました。このような設備の重要性は地方政府にも認識され、州レベルでの防災対応体制に組み入れることが提起されました。また北ジャカルタおよびチリンチン地区当局は本プロジェクトがコミュニティに提供した電源不要な手動式サイレンについて、洪水時の早期警報に最適と判断し、行政レベルでの導入を予定しています。



子どもにも簡単に使える小型タイプの手動式サイレン

② 防災教材の作成および配布

子どもたちの防災能力や意識の向上にむけ、学校保健と防災に関する包括的な教材(コミックなど)およびカレンダー2,500部が作成され、配布されました。対象小学校のうち5校⁴では既にこれらの教材を授業の中に組み込んで活用しています。また上で述べたように防災教育ビデオも作成されており、近日中に完成し、公表される予定です。

作成された防災教育カレンダー

⁴ Baburidho 小学校、Pantai Indah 小学校、Al Barkah 小学校、Marunda 02 小学校、および Al Ikhwan 小学校の5校。

4. 裨益者の声

ケースストーリー：ディマス君（11歳）



チリンチン地区カンポン・サワ地域にある Ar-Rahmah 小学校に通うディマス君は活発な小学生で、朝は友だちと元気に登校し、授業の後は自宅で昼食と昼寝、そして午後には友だちと遊んでから夜に宿題に取り組むのが日課でした。

しかし彼が4年生だった昨年、コミュニティが大雨後の洪水に見舞われた時には家の周囲の状況が一変し、ディマス君は恐怖に襲われ混乱しながら学校に駆け込みました。けれどもそこも避難してきた多くの周辺住民で混雑し、普段と全く様子が異なっていました。教室は散らかって床も汚れており、けがをしている友だちもいました。濁って悪臭のある水溜りで遊ぶ子どもたちもいましたが、ディマス君はどう

してよいかかわらず、強い不安を経験したのです。

平常な生活に戻ったその後、防災に向けたHVCA研修⁵が行われると聞いた時、ディマス君は昨年の洪水時の不安を思い出して複雑な気持ちになりましたが、参加を決意しました。災害とは何か、どんな危険や脆弱性があり、それに対して自分たちに何が出来るのかを教師や親と共に学びながら考えたこの研修は、ディマス君にとってとても有益なものでした。中でも特に有用だと思ったのは、みんなで学校周辺地区の地図を描いて洪水時に危険の大きい地点を特定し、避難ルートを定める作業です。災害時に行くべき場所を理解し、さらに誰が何をすべきかを話し合うこともできたので、今後災害に対応する時には混乱が防げると感じました。

Ar-Rahmah 小学校では「リトル・ドクター/災害対応チーム」が結成され、HVCA研修の後に実施された避難訓練で、ディマス君は「リトル・ドクター」としてけが人などの手当をする役割を担いました。

「研修や想定訓練に参加したおかげで、災害が起きてももうパニックや恐怖に襲われることはないと思います。ぼくも友だちも心の準備ができていますし、何をすべきかわかっているからです。」

ディマス君の避難訓練での活動を見て、他の子どもたちもリトル・ドクターになりたいと希望するようになりました。

5. 今後の展望

本事業では避難訓練・避難キットおよび教材の配布を通じて、対象地域の子どもたちの防災能力と意識の向上ならびに学校の対応体制づくりに大きく貢献することができました。

また避難訓練の実施が地方における行政当局および防災対応関連機関の関心を呼び、災害対応計画作成をはじめとする政府の防災活動への取り組みを促しました。本事業における避難訓練や研修、配布された避難キットや教材の内容も高く評価され、地域社会の防災対応体制における導入や参照が検討されています。

今後はこれまでの経験を活かしつつ、事業実施を通じて向上した緊急事態への対応能力のさらなる強化と防災知識の定着を目指すと同時に、学校周辺の地域コミュニティへの働きかけを強化することで、防災活動を通じた子どもたちの安全と参加の推進をより包括的に実現していきたいと考えております。

本事業をご支援いただき、誠にありがとうございました。

⁵ Hazard, Vulnerability and Capacity Assessment（危険、脆弱性、自己能力の評価）の略

6. 収支報告

項目	予算金額	支出金額
学校における避難訓練	3,200,000 円	3,355,973 円
避難キットの配布		
広報費	200,000 円	115,679 円
インドネシア事務所運営サポート費	600,000 円	528,348 円
東京本部管理費	1,000,000 円	1,000,000 円
合計	5,000,000 円	5,000,000 円

8. 活動写真



2015年4月8日のMarunda 02小学校の地震避難訓練。避難ポイントで応急手当・心理的サポート・状況確認のシミュレーションが行われました。



低姿勢になり、机等を固定しながらその下で身体を守る練習



災害発生時に屋外にいた場合の対応や注意点を教師が生徒たちに説明しています。



リトル・ドクター/災害対応チームの子どもたち



2014年10月28日にカンボン・サワ地域で実施された避難訓練で応急手当のシミュレーションに参加する人々



手動式サイレン(大型タイプ)の使用法のデモンストレーション